



J F E ホールディングス株式会社

2025 年度第 1 四半期 決算説明会（インベスターズミーティング）

2025 年 8 月 4 日

登壇

司会：ご参加の皆様、大変長らくお待たせいたしました。これより、JFE ホールディングスのインベスターズ・ミーティングを開催させていただきます。

本日の出席者は、代表取締役副社長、寺畑雅史、常務執行役員、田倉綱大です。

本日の時間割ですが、ご説明約 30 分、質疑 30 分の合計 60 分を予定しています。

それでは、本日発表いたしました決算および業績見通しにつきまして、まずは、代表取締役副社長、寺畑より業績の概要をご説明します。

業績ハイライト

年間見通しは、事業利益、セグメント利益、当期利益ともに前回公表通り

中間配当は40円とする方針を決定。年間配当は8次中期経営計画方針通り80円を見込む

2025年度
第1四半期
決算

事業利益

※棚卸資産評価差等除き

162億円

[452億円]

セグメント利益

※棚卸資産評価差等除き

103億円

[393億円]

2025年度
見通し

単独粗鋼量
2,100wt 程度
為替
145円/\$ 程度

当期利益

750億円

年間配当

80円

(中間配当40円)

対前年同期

▲407億円

[▲167億円]

対前年度

47億円

[▲363億円]

対前年同期

▲414億円

[▲174億円]

対前年度

▲45億円

[▲455億円]

対前年同期

▲168億円

対前年度

▲20円

対前回公表

—

対前回公表

—

対前回公表

前回公表通り

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

3

寺畑：それでは、業績のハイライトでまとめております。1クォーター事業利益 162 億円、セグメント利益 103 億円、実力損益は 452 億円と 393 億円です。

なお、年度につきましては前回の公表どおりということで事業利益 1,400 億円、セグメント利益 1,100 億円、当期利益 750 億円です。

年間の粗鋼生産につきましては、前回の見通しと同様 24 年度と比べて 95 万トン落として 2,100 万トンとしております。関税のリスクにつきましては、まだまだリスクという意味では拭い去れるものではないと考えています。

為替につきましては前回 140 円で見えていましたが、今回足元の状況も踏まえまして 145 円と見直しています。

なお、配当につきましては、8 次中期計画で配当性向 30%に加えて最低配当 80 円という方針をお示ししています。これを受けまして中間配当に関して 40 円ということで本日の取締役会で決議しました。

私からは以上でございます。

2025年度 第1四半期決算



- 第1四半期事業利益は162億円（対前年同期▲407億円）
※棚卸資産評価差等除き 452億円（対前年同期▲167億円）

(億円)	2024年度実績 4-6月	2025年度実績 4-6月	増減 4-6月
売上収益	12,111	11,153	▲958
事業利益	569	162	▲407
※棚卸資産評価差等除き	[619]	[452]	[▲167]
金融損益	▲51	▲58	▲7
セグメント利益	517	103	▲414
※棚卸資産評価差等除き	[567]	[393]	[▲174]
個別開示項目	▲122	-	122
税引前利益	395	103	▲292
税金費用・ 非支配持分帰属当期利益	▲120	▲32	88
当期利益	275	71	▲204

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの
セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 5

田倉：それでは私、田倉から第1四半期の実績、それから25年度通期の見通しについてご説明させていただきます。まず、5ページの1四半期の決算です。中ほどにあります25年度の実績4-6月です。

売上収益が1兆1,153億円で、958億円の減収です。事業利益につきましては162億円で、前年同期から407億円の減益、棚卸資産評価差等除きでは452億円で、前年同期比で167億円のマイナスです。

セグメント利益は103億円、棚卸資産評価差等除きで393億円です。当期利益につきましては71億円で、前年同期比で204億円の減益となっています。

2025年度 第1四半期決算 セグメント別



(億円)	2024年度 実績 4-6月	2025年度 実績 4-6月	増減 4-6月	増減内容
鉄鋼事業	8,606	7,612	▲994	
エンジニアリング事業	1,238	1,353	115	
商社事業	3,583	3,387	▲196	
調整額	▲1,316	▲1,200	116	
売上収益 計	12,111	11,153	▲958	
事業利益 (A) ※棚卸資産評価差等除き	569 [619]	162 [452]	▲407 [▲167]	
金融損益 (B)	▲51	▲58	▲7	
鉄鋼事業 ※棚卸資産評価差等除き	315 [365]	▲121 [169]	▲436 [▲196]	円高による輸出採算悪化、 棚卸資産評価差 等
エンジニアリング事業	40	57	17	売上収益増加および工事構成差 等
商社事業	115	126	11	米国における市況上昇 等
調整額	47	41	▲6	
セグメント利益 計 (A) + (B) ※棚卸資産評価差等除き	517 [567]	103 [393]	▲414 [▲174]	

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの

セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 6

次のページで、セグメント利益についてセグメント別にご説明します。

まず、鉄鋼事業は、4-6月は121億円の赤字ということで、前年同期から436億円のマイナスです。棚卸資産評価差等除きでは169億円ということで、前年同期比196億円のマイナスです。詳細は次のページでご説明します。

エンジニアリング事業は57億円ということで前年同期から17億円の増益、こちらは売上収益の増加、それから工事構成差の改善等が効いています。

商社事業につきましては126億円ということで前年同期から11億円のプラスと、主に米国における市況上昇が影響しています。

2024年度4-6月→2025年度4-6月 セグメント利益 増減内訳

JFEスチール



	単位	2024年度 4-6月	2025年度 4-6月		2024年度 4-6月	2025年度 4-6月	増減
単独 粗鋼生産量	万t	548	528	(億円)			
単独 出荷量	万t	470	471	セグメント利益	315	▲121	▲436
鋼材 平均価格	千円/t	139.2	120.4	* 棚卸資産評価差等除き	365	169	▲196
為替レート	円/ドル	155.0	145.3				

内訳

①コスト	+20	
②数量・構成	▲60	・ 粗鋼 548万t→528万t
③スプレッド*	▲90	・ 円高による輸出採算悪化 ・ 原料物価変動の販価反映時期差
④棚卸資産評価差等	▲240	・ 棚卸資産評価差▲230 (±0→▲230) ・ キャリーオーバー影響+120 (▲130→▲10) ・ 為替換算差▲130 (+80→▲50)
⑤その他	▲66	・ 償却費、金利 他

*諸物価（金属、エネルギー、資材、物流、労務費、為替影響等）を含むスプレッド

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 7

こちらでスチールの前年同期との比較で4-6月の決算を見ています。左上に前提を付しています。

セグメント利益で436億円のマイナスという内訳を下部に記載しています。コスト削減は20億円進んだ一方で、数量がこの間、粗鋼生産が20万トンの減ということで、この影響で60億円のマイナス。スプレッドにつきましては主に円高による輸出採算悪化により90億円のマイナスです。

棚卸資産評価損につきましては内訳に入り繰りがありますが、大きくは一番上の棚卸資産評価差、こちらが残って240億円のマイナスです。その他、償却費、金利等の費用増ということで66億円のマイナスがあります。

2025年度 業績見通し



- 年間見通しは、事業利益1,400億円(前回公表通り、対前年度+47億円)、
当期利益 750億円(前回公表通り、対前年度▲168億円)を見込む

(億円)	2024年度 実績		2025年度 見通し(前回)	2025年度 見通し(今回)		増減 (対前年度)	増減 (対前回公表)
	上期	年間		上期	年間	年間	年間
売上収益	24,507	48,596	47,500	23,300	47,500	▲1,096	0
事業利益	818	1,353	1,400	400	1,400	47	0
※棚卸資産評価差等除き	[1,348]	[2,363]	[2,000]	[930]	[2,000]	[▲363]	
金融損益	▲98	▲207	▲300	▲150	▲300	▲93	0
セグメント利益	720	1,145	1,100	250	1,100	▲45	0
※棚卸資産評価差等除き	[1,250]	[2,155]	[1,700]	[780]	[1,700]	[▲455]	
個別開示項目	▲121	297	0	0	0	▲297	0
税引前利益	599	1,443	1,100	250	1,100	▲343	0
税金費用・ 非支配持分帰属当期利益	▲174	▲524	▲350	▲100	▲350	174	0
当期利益	424	918	750	150	750	▲168	0

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの
セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 9

続いて、25 年度通期の業績見通しです。

年間の見通しについては全て前回見通しどおりです。今回上期見通しを公表していますので、そこについても申し上げたいと思います。

中ほどの 25 年度見通し（今回）というところですが、事業利益は上期が 400 億円、年間が 1,400 億円ということです。セグメント利益は上期が 250 億円、年間が 1,100 億円、当期利益につきましては上期が 150 億円、年間が 750 億円ということで、こちらの年間と上期の差が下期見通しにあたるので、いずれの利益項目につきましても上期から下期にかけて改善を見込んでいます。

2025年度 業績見通し セグメント別



(億円)	2024年度実績		2025年度見通し(前回)	2025年度見通し(今回)		増減(対前年度)	増減(対前回公表)
	上期	年間		上期	年間		
鉄鋼事業	17,293	33,651	30,700	15,400	30,700	▲2,951	0
エンジニアリング事業	2,695	5,698	6,000	2,750	6,000	302	0
商社事業	7,155	14,385	15,000	7,500	15,000	615	0
調整額	▲2,635	▲5,139	▲4,200	▲2,350	▲4,200	939	0
売上収益 計	24,507	48,596	47,500	23,300	47,500	▲1,096	0
事業利益 (A) ※棚卸資産評価差等除き	818 [1,348]	1,353 [2,363]	1,400 [2,000]	400 [930]	1,400 [2,000]	47 [▲363]	0
金融損益 (B)	▲98	▲207	▲300	▲150	▲300	▲93	0
鉄鋼事業 ※棚卸資産評価差等除き	345 [875]	363 [1,373]	400 [1,000]	▲150 [380]	400 [1,000]	37 [▲373]	0
エンジニアリング事業	89	193	200	90	200	7	0
商社事業	224	479	500	250	500	21	0
調整額	62	108	0	60	0	▲108	0
セグメント利益 計 (A) + (B) ※棚卸資産評価差等除き	720 [1,250]	1,145 [2,155]	1,100 [1,700]	250 [780]	1,100 [1,700]	▲45 [▲455]	0

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの

セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 10

このスライドで、セグメント別に説明させていただきます。

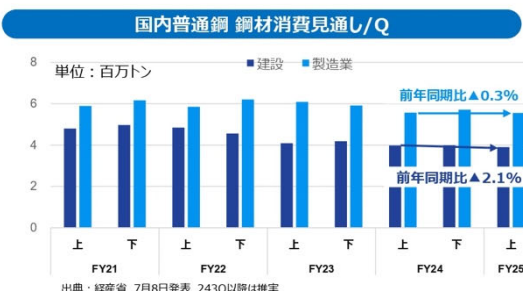
鉄鋼事業につきましては、150 億円のマイナスが上期で年間は 400 億円ということで、上期よりも下期に大きく改善する見通しです。エンジニアリング事業は上期 90 億円、通期は 200 億円、商社につきましては上期で 250 億円、年間は 500 億円ということです。

足元の事業環境認識（国内鋼材需要）

JFEスチール



- 製造業向けは、**米国の関税措置が最大のリスク**。特に**自動車・建産機分野の動向・影響について注視**。
- 建設分野は、**建設コスト上昇・人手不足の影響を背景に低迷が継続**すると想定。



出典：経産省 7月8日発表 243Q以降は推定

分野別動向

自動車

- 米国の自動車向け関税措置による混乱が生じている。国内販売については需要は底堅いが、**相互関税影響等、自動車輸出の変動要素が大きい局面**。現時点で関税影響の合理的な試算は難しいが、引き続き影響を注視しリスクに備える必要がある。

造船

- 引き続き堅調な需要環境にあり、国内造船各社は安定水準である約3年分の受注残を確保。一方、人手不足や難仕様船増などを背景に建造ピッチが上らない状況も続いており、**短期的に鋼材需要の更なる伸びは見込みにくい**。

その他製造業

- (建機) 欧州・アジア向けに加え、米国向けも高金利影響に伴う住宅投資の減速感を受けた**在庫・生産調整局面が継続**。日本からの建機輸出の約3割が北米向けであり、**米国関税による影響が懸念される**。
- (産機) 中国の景気減速影響等で**引き続き低調な環境**。内需の自動車向け比率、輸出に占める北米向け比率は共に高く、**自動車関税・相互関税の影響を注視**。

建築

- 資材高騰や人手不足の影響による低迷が継続。建設コストや金利の上昇等を背景とした建設投資・住宅取得マインドへの影響は根深く、**短期的な戻りは期待できない**。
- 工期の長期化、一部資材の需給逼迫などリスク要因も多い。

土木

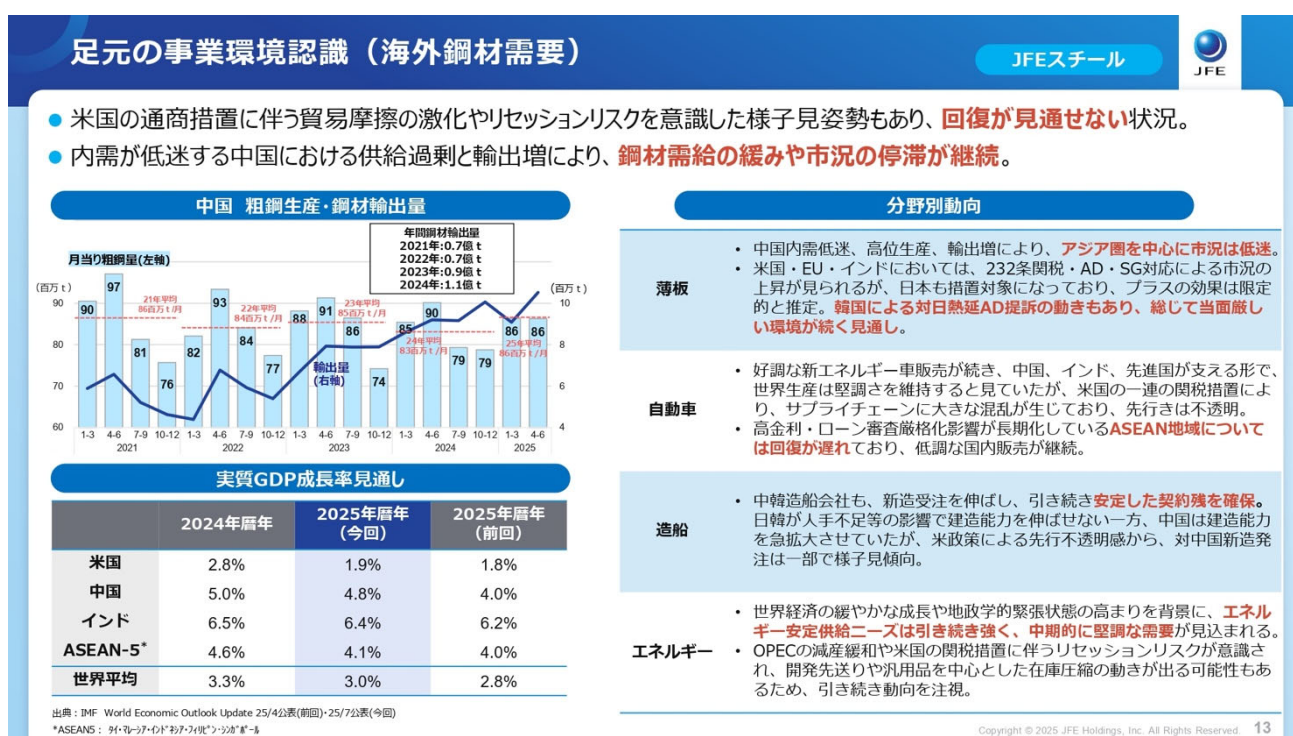
- 引き続き高水準の予算措置がなされているものの、各種コストの上昇や人手不足等の影響を受け、24年度・25年度共に、**実質的な活動水準や鋼材需要は漸減方向と想定**。

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 12

続いて、スチールの業績見通しについてご説明いたします。

まず、事業環境認識です。こちら、前回と大きな変化はございませんが、やはり製造業向けにつきましては一定の方向性が出てきたとはいえ、米国の関税措置というのが直接的あるいは間接的な影響として最大のリスクと考えています。特に北米輸出比率の高い自動車・建産機分野の動向・影響の注視が必要だろうと考えています。

それから建設分野につきましては、左下に普通鋼の商品見通しをつけておりますが、25年の上期は前年同期から2.1%需要が下がる見通しということで、短期的な戻りというのはなかなか期待できない状況と見ています。



続いて、海外につきましては、やはり米国の通商措置に伴う貿易摩擦の激化、あるいはリセッションリスクを意識した様子見姿勢ということもありまして、回復が見通せない状況です。右の分野別のところで薄板の項目の中段につけておりますが、韓国による対日熱延アンチダンピングの提訴もあり、総じて厳しい環境が続く見通しです。

なお、中国における供給過剰、輸出増については、依然として鋼材事業の緩み、あるいは市況停滞という形で継続しています。



Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 14

こちらは、これまでの海外鋼材市況の主なマーケットにおける市況推移です。左の中国に関しては、停滞がかなり長く続いています。

一方で、インドにつきましてはこの4月に発せられたセーフガードの影響もあり、底打ち感があり上昇基調です。

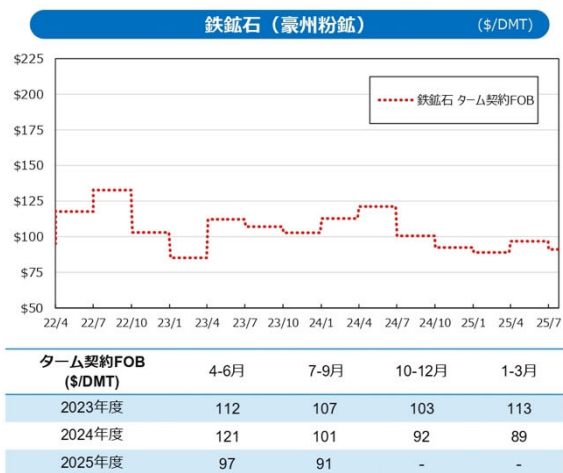
米国鋼材市況については、足元、調整が入っていますが、関税影響の結果、上昇基調にあります。

足元の原料市況動向

JFEスチール

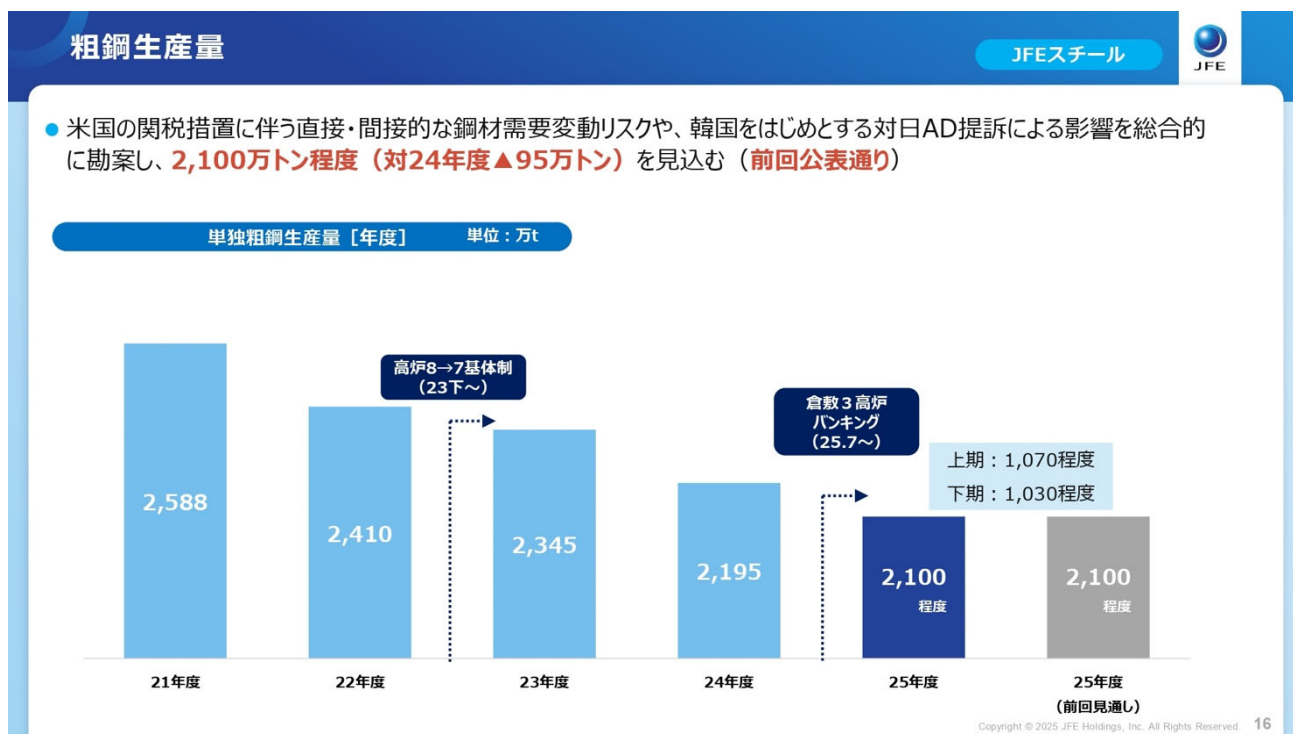
JFE

- 鉄鉱石：最大輸入国である中国の鋼材需要の不振は継続しており、**当面足元の価格レベルで推移するものと想定**。
ただし、中国政府は国内鉄鋼市場の過当競争を是正する方針を示しており、今後の政策動向は要注視。
- 原料炭：主要需要地であるインドのモンスーン明けの需要回復は一定程度見込まれるが、大きな需給環境の変化はなく、**当面は大幅な価格上昇は想定されない**。



Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 15

原料市況、鉄鉱石、原料炭とも落ち着いた推移が続いております。鉄鉱石は大体 90 ドル台、それから原料炭は 170 ドルから 190 ドルの間を推移していますが、いずれも当面の足元価格で年度内は推移するとみています。

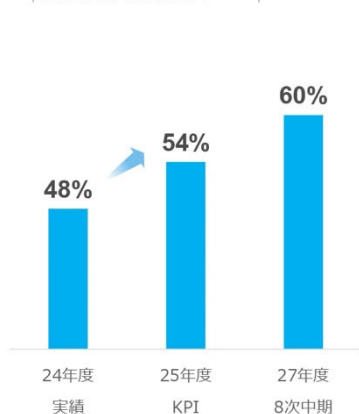


粗鋼生産量についてです。

粗鋼生産に関しては、米国の関税措置に伴うリスク、それから韓国をはじめとする対日アンチダンピングの影響、こういったものを勘案しまして前回公表どおり 2,100 万トン程度、24 年度比較で 95 万トン減ということです。

なお、米国については現段階でも、米国の関税措置に伴う影響については合理的な算出は依然として難しい状況ですが、前回同様 50 万トン程度を粗鋼影響として織り込んでいます。それから倉敷の 3 高炉のバンキングは、25 年 7 月からスタートしています。

- 当社の技術力を活かした高性能電磁鋼板や自動車用ハイテン、洋上風力用厚板、新エネルギー対応厚板/シームレスパイプ等の製品拡販（輸出汎用品から置換）により、製品トン当たり利益向上を図る。

高付加価値品比率^(*)

(*)高付加価値品：

技術優位性を有し、お客様から付加価値を認められ、汎用品を上回る収益力を持つ商品（当社定義）

市場環境等

品種	市場環境	主な設備投資
電磁鋼板	- 世界的な電力需要の高まりから、変圧器メーカーの需要は堅調に推移しており、方向性電磁鋼板(GO)は引き続き堅調な需要環境が見込まれる。 - 足元では地域別に電動化の進展に濃淡が見られるが、中長期的に自動車電動化の流れは不変。	2024年9月 倉敷NO能力増強1期（従来比2倍） 2026年度 予定 倉敷NO能力増強2期（従来比3倍）
自動車用ハイテン	至近では米国の関税措置による混乱が生じているが、世界的に自動車販売台数は堅調に推移しており、超ハイテン需要は引き続き伸長が見込まれる。	2028年度1Q 予定 福山超ハイテン製造CGL
洋上風力用厚板	一部洋上風力プロジェクトで案件遅れが発現しているが、CNに向けた重要なエネルギー源との位置づけは変わらず、今後も堅調な需要が見込まれる	2021年6月 倉敷新連続铸造機建設
新エネルギー分野	- エネルギー安定供給のニーズは不変も、世界経済の先行き不透明感や、インフレ等の影響が懸念事項。 - ガスについては、米国LNG輸出基地や電力需要の拡大に伴い2025年後半には回復が見込まれる。 - 将来的にはCCS分野等でのシームレス需要の増加も見込まれる。	

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 17

続いて、当社の技術力を生かした高付加価値品比率の拡大ということで、7次中期から製品トン当たりの利益向上を図る取り組みを進めてございます。8次中計でも左のグラフの中で、24年実績48%から27年度には60%を目指すとお伝えしていますが、25年度のKPIは54%ということで設定いたしました。

こちらについては、主に足元で増強している電磁鋼板、それから洋上風力向けの厚板、こういった商品の拡販を目指しています。

主に注力しています高付加価値品を4品種、それぞれの市況、市場環境、主な設備投資をつけています。

詳細についてはご説明割愛しますが、市場の濃淡というのはあるものの、中期的には堅調な需要がいずれも見込まれるということで、取り組んでいます。

	単位	2024年度							2025年度					2025年度 前回見通し (年間)
				上期			下期	年間			上期	下期	年間	
		4-6月	7-9月		10-12月	1-3月			4-6月	7-9月				
売上収益	億円	8,606	8,687	17,293	8,289	8,069	16,358	33,651	7,612	7,788	15,400	15,300	30,700	30,700
セグメント利益	億円	315	30	345	104	▲86	18	363	▲121	▲29	▲150	550	400	400
棚卸資産評価 差等除き*	億円	365	510	875	444	54	498	1,373	169	211	380	620	1,000	1,000
単独粗鋼生産量	万 t	548	555	1,103	553	539	1,091	2,195	528	540程度	1,070程度	1,030程度	2,100程度	2,100程度
連結粗鋼生産量	万 t	580	589	1,169	583	567	1,150	2,320	561	570程度	1,130程度			
単独鋼材出荷量	万 t	470	496	966	487	484	971	1,936	471	480程度	950程度			
鋼材輸出比率 (単独・金額ベース)	%	40.6	44.2	42.4	40.0	41.9	40.9	41.7	39.9	42程度	41程度			
鋼材平均価格	千円/ t	139.2	131.5	135.2	127.0	124.0	125.5	130.3	120.4	119程度	120程度			
為替レート	円/¥	155.0	152.8	153.9	149.0	154.1	151.6	152.7	145.3	145程度	145程度	145程度	145程度	140程度
期末為替レート	円/¥	161.1	142.7	142.7	158.2	149.5	149.5	149.5	144.8	145程度	145程度	145程度	145程度	140程度

*セグメント利益から、棚卸資産評価差、キャリーオーバー、為替換算差等を除いた損益

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 18

25年度業績見通しの諸元をこちらに記載していますが、25年度の上期を中心に説明します。

中段、単独粗鋼生産量、上期は1,070万トン程度ということで、24下期から20万トンの減ということ織り込んでおります。年間2,100万トン程度。そして鋼材輸出比率は上期で41%程度ということで、24年下期並みです。

それから鋼材平均価格は12万円程度ということで、24の下からは5,500円程度の減ということで、主に円高、それから原料価格反映時期差の影響です。

為替レートにつきましては、24下期が151.6円に対して上期は145円程度、通期でも145円程度ということで、前回見通しは140円ですので、そこからは5円円安ということです。

2025年度 前回→今回 セグメント利益 増減内訳

JFEスチール



	単位	2025年度 前回	2025年度 今回		2025年度 前回見直し	2025年度 今回見直し	増減
単独 粗鋼生産量	万t	2,100程度	2,100程度	(億円)			
単独 出荷量	万t	-	-	セグメント利益	400	400	±0
鋼材 平均価格	千円/t	-	-	* 棚卸資産評価差等除き	1,000	1,000	±0
為替レート	円/ドル	140程度	145程度				

内訳

①コスト	±0	
②数量・構成	±0	・ 粗鋼 2,100万t程度→2,100万t程度
③スプレッド*	+130	・ 円安による輸出採算改善等
④棚卸資産評価差等	±0	・ 棚卸資産評価差 +10 (▲510→▲500) ・ キャリオーバー影響 ▲60 (+10→▲50) ・ 為替換算差 +50 (▲100→▲50)
⑤その他	▲130	・ Gr会社▲90 他

*諸物価（金属、エネルギー、資材、物流、労務費、為替影響等）を含むスプレッド

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 19

こちら、前回、今回の比較でございます。

セグメント利益につきましては400億円のままでということで増減はありませんが、内訳のところで入り繰りがあります。③のスプレッドに関して主に5円程度の円安による輸出の採算改善を織り込んで130億円のプラスを見込んでいます。

一方でグループ会社、こちら、国内外ともに原料あるいは電炉関係での市況下落の影響、90億円に加え、その他の経費増を織り込んで130億円のマイナスを見込んでいます。

これらが入り繰りプラスマイナスゼロということです。

2024年度→2025年度 セグメント利益 増減内訳

JFEスチール



	単位	2024年度 実績	2025年度 見通し		2024年度 実績	2025年度 見通し	増減
単独 粗鋼生産量	万t	2,195	2,100程度	(億円)			
単独 出荷量	万t	1,936	-	セグメント利益	363	400	+37
鋼材 平均価格	千円/t	130.3	-	* 棚卸資産評価差等除き	1,373	1,000	▲373
為替レート	円/ドル	152.7	145程度				

内訳

①コスト	+240	・ 操業改善他
②数量・構成	▲150	・ 粗鋼 2,195万t→2,100万t程度 ・ 高付加価値品拡大（電磁・風力向け厚板等）
③スプレッド*	▲430	・ 円高による輸出採算悪化 ・ 原料物価変動の販価反映時期差
④棚卸資産評価差等	+410	・ 棚卸資産評価差▲170 (▲330→▲500) ・ キャリーオーバー影響+610 (▲660→▲50) ・ 為替換算差▲30 (▲20→▲50)
⑤その他	▲33	・ Gr会社+280 ・ その他 ▲313（償却費、金利、工事時期差 等）

*諸物価（金属、エネルギー、資材、物流、労務費、為替影響等）を含むスプレッド

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 20

19 ページの変化を前回公表の見通しから反映したものが 20 ページの 24 年と 25 年の差です。内訳はスプレッドのマイナスの部分が前回から減り、一方でその他の部分のプラスが減ったということで、影響としては前回と同じくセグメント利益で 24 実績から 37 億円のプラスということです。

2025年度上期→下期 セグメント利益 増減内訳

JFEスチール



	単位	2025年度 上期見通し	2025年度 下期見通し		2025年度 上期見通し	2025年度 下期見通し	増減
単独 粗鋼生産量	万t	1,070程度	1,030程度	(億円)			
単独 出荷量	万t	950程度	-	セグメント利益	▲150	550	+700
鋼材 平均価格	千円/t	120程度	-	* 棚卸資産評価差等除き	380	620	+240
為替レート	円/ドル	145程度	145程度				

内訳

①コスト	+70	
②数量・構成	±0	・ 粗鋼 1,070万t程度→1,030万t程度 ・ 高付加価値品拡大（電磁・風力向け厚板等）
③スプレッド*	±0	
④棚卸資産評価差等	+460	・ 棚卸資産評価差+380 (▲440→▲60) ・ キャリーオーバー影響+30 (▲40→▲10) ・ 為替換算差+50 (▲50→±0)
⑤その他	+170	・ Gr会社+120

*諸物価（金属、エネルギー、資材、物流、労務費、為替影響等）を含むスプレッド

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 21

こちら、上期下期の差異でございます。

25 年度上期見通しが 150 億円のマイナスに対して、25 年度下期は 550 億円のプラスの見通しということで 700 億円の改善、そして評価損除きでいうと 240 億円の改善ということで、その内訳が下部の表となります。

コストにつきましては 70 億円の改善を見込んでいます。数量につきましては、粗鋼が 40 万トン減るマイナスがある一方で、構成改善によりプラスマイナス 0、スプレッドについては変化なし、棚卸資産評価差等については上期の評価減が、ほぼ下期に消えるという影響でプラス 460 億円、そしてグループ会社 120 億円という、これは国内、それから JSW を主に見ていますが、その他と合わせて 170 億円のプラスを見込んで全体として 700 億円のプラスということです。

JFEエンジニアリング2025年度 業績見通し

JFEエンジニアリング

JFE

■ 足元の事業環境/損益概況

● 年間セグメント利益は、200億円を見込む（前回公表通り）

● Waste to Resource分野、カーボンニュートラル分野（洋上風力等）で受注拡大を見込む

● 洋上風力モノパイル製造事業は、国内ラウンド案件初受注を見込む

■ 業績見通し

(億円)	24年度実績		25年度見通し		増減 (対前年度)	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間
受注高	2,460	5,795	3,200	7,000	740	1,205
売上収益	2,695	5,698	2,750	6,000	55	302
セグメント利益	89	193	90	200	1	7

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 23

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 23

続けて、JFEエンジニアリングでございます。

セグメント利益につきましては、上期が 90 億円、通期が 200 億円を見込んでおりまして、通期は前回公表どおりです。

受注につきましては 7,000 億円ということで Waste to Resource、それからカーボンニュートラル分野を中心に前年よりは受注を広げていく予定です。

それから、洋上風力モノパイル製造事業につきましては足元やや遅れはありますが、年度内で国内ラウンド案件の初受注を見込んでいます。

■ 足元の事業環境/損益概況

- 年間セグメント利益は、**500億円**を見込む（前回公表通り）
- 北米の市況上昇や国内グループ会社のスプレッド改善・合理化促進による収益改善を見込む

■ 業績見通し

(億円)	24年度実績		25年度見通し		増減（対前年度）	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間
売上収益	7,155	14,385	7,500	15,000	345	615
セグメント利益	224	479	250	500	26	21

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 25

続けて JFE 商事でございます。

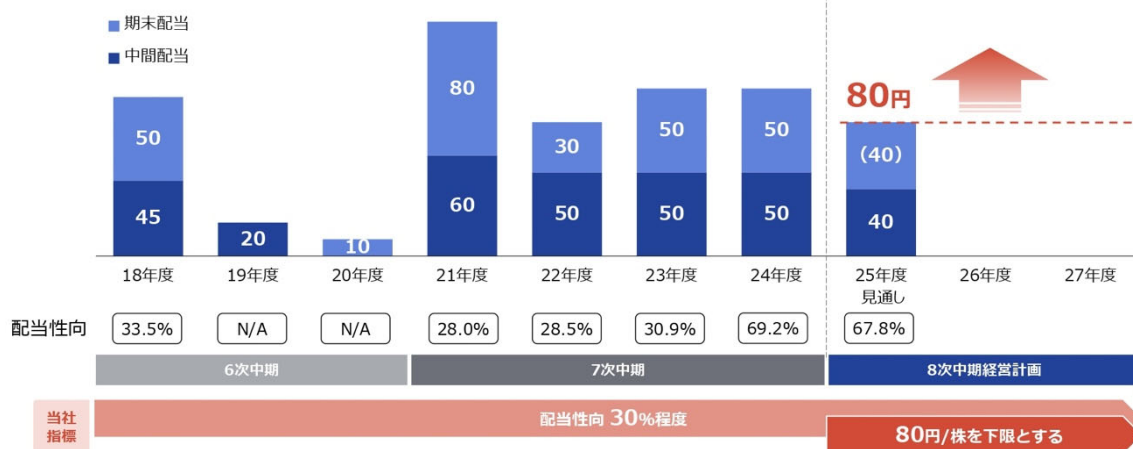
こちらは、セグメント利益は上期 250 億円、通期で 500 億円ということで、通期は前回見通しどおり、それから前年と比較しますとプラス 21 億円となります。前年に比べて北米の市況上昇、それから国内グループ会社の収益改善を見込んでいます。

配当について

- 中間配当については、**1株当たり40円**とする方針を取締役会で決議
- 年間配当については、**1株当たり80円の見通し（8次中期経営計画方針(*)通り）**

(*) 配当性向30%程度、但し、年間80円/株を下限とする

1株当たり配当金（円/株）



Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 27

配当につきましては冒頭、ご説明したとおりで、中間配当を 40 円とする方針を取締役会で決議し、年間配当につきましては前回公表どおり 80 円を予定しています。

インドにおける方向性電磁鋼板製造能力拡張



- 世界最大規模の人口を有するインドの電力需要増加により、大幅に拡大する方向性電磁鋼板のニーズを着実に捕捉すべく、戦略的アライアンスパートナーである**JSWと共同設立した方向性電磁鋼板製造・販売会社 (J2ES・J2ES Nashik)** の製造能力を2030年度に35万t/年へ大幅に拡張することを決定。

会社名	JSW JFE Electrical Steel Private Limited (J2ES)	JSW JFE Electrical Steel Nashik Private Limited (J2ES Nashik)
持分比率	JFE50%、JSW50%	
既投資	約1,000億円 ('24/2投資)	約700億円 ('25/1買収)
今回拡張投資 (*)	約1,200億円	
総投資額 (*)	約2,900億円	
製造能力	10万t/年 (現状比倍増)	25万t/年 (現状比5倍)
	35万t/年	
稼働時期	27年度	既設：稼働中 拡張：28～30年度

(*) 投資額はJ2ES・J2ES Nashik合計、JFE・JSW両社計



Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 29

最後、トピックスです。

8月8日の海外戦略説明会でも本件についてご説明する予定ですが、インドにおける方向性電磁鋼板製造能力の拡張を決定した旨、本日プレスリリースしています。

インドにおいて方向性電磁鋼板の需要が大幅に増える見通しのなかで、これを捕捉すべく、既に共同設立しています下の表の2社の製造能力を2030年度までに35万トンまで大幅拡張することを決定したものです。

こちらの下の表の左側、J2ESは24年2月に設立したVijayanagarを拠点としたものです。それから右のJ2ES Nashik、こちらは今年の1月にthyssenkruppから買収したものです。今回、拡張投資として総額1,200億円、製造能力をJ2ESで倍増、そしてJ2ES Nashikで5倍ということで合わせて35万トンまで大幅に拡張します。

稼働時期につきましてはJ2ES、こちらは従来どおり27年度に稼働開始予定です。一方、J2ES Nashikにつきましては既に稼働していますが、今回の拡張を段階的に28年度から30年度までに実行するというので、両社の拡張を通じてインドの方向性電磁鋼板市場において圧倒的なNo.1サプライヤーの位置づけを確立したいと考えています。

ご説明は以上となります。

質疑応答

司会：それでは質疑応答に移りたいと思います。

質問者：

年初の見通しでは 2024 年度に対して 95 万トンの減産を織り込むということで、そのうちの 50 万トン程度が米国関税起因で、その他、韓国等からのアンチダンピング影響を織り込んでいるという説明があったという認識しています。

韓国が熱延鋼板の輸入について 30%以上のアンチダンピング関税を仮決定したということで、事実上、韓国向けの輸出がかなり厳しくなると思いますが、これを十分に予算に織り込まれているのかということ、また、数量見通しに関して、2Qに少し増産で織り込まれているようですが、これは輸出比率が上がるという説明もありましたので韓国以外に輸出していくような意味合いなのか。世界の市況が低迷している中で品種構成の悪化みたいなのが起こらないのか、今後の生産出荷の見通しにつきご解説ください。

JFE：前年度から 95 万トンの減については、ご質問の中にもありましたように米国が半分ぐらいで、その他の影響も踏まえて年度計画は立てておりますので、韓国も含めて一定程度、影響は見きれていると考えています。今後の生産見通しですが、2025 年度を通して見ますと上期が 1,075 万トンで、下期が 1,025 万トンと計画しており、下期は上期に対してリスクを見込み減産を織り込んでいます。

韓国のアンチダンピングに関しては、まだ仮決定の段階ですので、現段階で影響等について詳細申し上げることはできませんが、もちろん一定の影響はあるとは思いますが、アンチダンピングの中でもお客様が必要なものは売っていく必要があるかと思っておりますので、お客様とも相談しながら対策を取っていきたいと考えています。

質問者：21 ページで、上期から下期へ実力利益で 240 億円の増益が織り込まれているうちの、グループ会社の 120 億円の増益について、例えば、JSW の上期は既に収益が改善していると思いますが下期でさらに増益を見込んでいるのか、また、カリフォルニア・スチールもホットコイルの市況が上がっている一方で、調達スラブのコストが上がっているという話も聞いているなかでリスクはないのか、こういったところも含めてグループ会社の 120 億円の増益についての解説をいただきたいと思っています。

JFE：グループ会社の 120 億円の改善の内訳としましては、国内で約 100 億円弱、海外が 30 億円弱を見込んでいます。

国内グループ会社については、特定の会社というよりは全体的に上期から下期に収益増を織り込んでおり、海外グループ会社につきましては JSW、それから原料系のオーストラリアのグループ会社、こちらを中心に増益を見込んでいます

質問者：原料系のグループ会社はブラックウォーターが増益するってことですか。

JFE：ブラックウォーターを含めた原料系ということです。

質問者：上期と下期で見た場合、カリフォルニア・スチールの影響は大きくないという事でしょうか。

JFE：カリフォルニア・スチールは上期がかなり好調だったということで、下期は若干落ちるかどうかというところだと思います。

質問者：上期から下期の数量構成に関して、40 万トン減産による収益影響を構成差でカバーするという説明がありました。これまで基本的に量と収益は連動しているように見受けられていましたが、この下期はこれまでと異なる特有の事情があるのか解説をお願いします。

JFE：中期計画の中でもお示していますが、下期以降、採算性の良い商品の比率を上げることでより収益を拡大していきたいと考えています。電磁鋼板や洋上風力向けの厚板、特に洋上風力向けの厚板に関しては JFE エンジのモノパイル工場の本格稼働は若干遅れていますが、海外向けも含めて、スチールで今、販売に力を入れています。

質問者：1Q から 2Q のスプレッド、上期から下期のスプレッドが横ばいという説明ですが、国内の店売りが、さらに値段が下がってマージンが圧縮するようなリスクについての考え方を教えてください。

JFE：基本的には輸入材の影響等スプレッドは厳しく見込んでいますが、特にわれわれの主力である紐付きはスプレッドを維持するということで、上期下期で大きな変化を全体としては見ていません。

質問者：前回の見通しに対して円安で 130 億円のマージンの改善という説明ですが、あまりこれまでは、そういう説明がなかった気がするなかで、今後は 5 円ぐらい為替変動があると、この程度の反応度があるという考え方を持ったほうが良いのかどうかを教えてください。

JFE：為替の影響は、特に今年について期初は10円以上の円高、それからそこからまた5円戻っているという非常に変動が激しい状況のなかで特に輸出の採算悪化というのが大きく出ているため、今回影響として出させていただきました。

質問者：今回発表されたインドの電磁鋼板も含め、先日来、新中計においては高付加価値戦略を前面に押し出されていると思います。インドでのGOの能力増強ということで、電力ネットワーク向けが中心なのか思いましたが、さらに加速して能力増強を決断された背景について教えてください。また、一方でNOに関しては、電気自動車の普及について、いろいろ見方が出てきていると思いますので、電磁鋼板全般の需給環境の見通しについても解説いただければと思います。

JFE：まず、GOの需要ですが、やはり一つは発電需要の高まり、アメリカ、インド等はデータセンターの増設も最近非常にピッチが上がっておりますので、見立てとして世界でのGOの需要は、年間5%。インドでは7%ぐらいで需要が伸びていくという見立てをしています。

ご案内のとおり、インドには、我々が買収しましたNashikと、もう1社ぐらいしか国内でのGOメーカーはございませんので、やはりここは、JFEとJSWでGOについてトップサプライヤーとしてマーケットをとっていきたいという思いをひとつにして今回の投資に踏み切ったということでございます。

NOに関しては、世界的に電気自動車については若干ピッチが鈍っており一定程度的影響はありますが、ハイブリッド車におきましても、JFEの高級NOの需要がありますので、きっちりと拡販に取り組んでシェアを伸ばしていきたいということで今、取り組んでいます。

質問者：米国の関税影響で、引き続きまだ不透明感強く、影響はまだ見通せない状況だと思いますが、米国の一部商社事業などで、市況改善効果で増益というご説明もありました。

JFE商事のところで、中計の中で極端にアメリカ市場に期待する解説はされていなかったと思います。ひところは米国でのパイプの利益貢献など大きかった時期もあったと思いますが、米国の足元の市況の変化に対してどういう見方をされているか。それが商事事業を含めて御社にどういう影響がありそうか、もう少し解説いただけたらと思います。

JFE：米国の関税影響ですが、米国のマーケットの見立てに関して、一旦、急回復しながら少し下落するなど、去年と比べると確かにマーケットは上がっていますが、過去と比べると見立てが難しくなっているかなと感じています。まだまだ不透明な部分もありますので、JFE商事につきましても一定程度の回復は見通してはいますが、アメリカ起因で非常に大きな影響が出るとまでは申し上げられない状況です。

最初のご質問でも回答しましたが、カリフォルニア・スチールにつきましても同じような環境認識で想定をしています。

質問者：JFEエンジニアリングのモノパイル事業に関して、日本製鉄さんがベスタスさんと協力して日本で取り組みを進めるというお話については、御社のモノパイルとは直接そこまで関係しないものなのかどうか。この影響を教えてくださいと思います。

JFE：日鉄さんが発表されている部分につきましては、洋上風力の風車に近いタワー部分でして、われわれが取り組んでいるモノパイルにつきましては、水面に近い部分ということで、部材が異なるため、あまり影響はないとは見えています。

質問者：モノパイルは御社が土台のところを担って、上の部分もきちんと日本としては取り組みが進んできているという、そういう連動した動きという理解でよろしいでしょうか。

JFE：連動はしていませんが、結果的にはそういうふうになっているということかと思います。

質問者：前回の見通しに対して 25 年度の利益見通しは据え置かれたなかで、5 円円安の影響で 130 億円のスプレッドの改善があるという説明ですので、為替を除けば、これは実質的には下方修正ということでしょうか。グループ会社のマイナス 90 億円含めた、その他のマイナス 130 億円というのは、JSW スチールが好調ななかでマイナス幅が大きいのにも見えますのでこの辺りのニュアンスも含めて教えてください。

JFE：グループ会社の見通しに関しては、前回と比べると海外、特に米国がもうちょっと良くなるかなと思ったところが今ひとつ良くなってないことを織り込んだ結果、このような整理になっています。

質問者：高付加価値品比率、25 年度で 54%、前年度比で 6%ポイントを増やすという計画に対して、P20 では 25 年度のセグメント利益が前年度に対して数量構成でマイナスの 150 億円となっていると思います。これは従前のように、例えばトン当たりの限界利益 2 万円ぐらいだとすると、今回、高付加価値品が拡大することによって構成の良化で 50 億円ぐらい改善を織り込まれたうえで、数量減影響と入り繰りがあるのか等ご説明ください。

JFE：20 ページの 150 億円マイナスの内訳は、数量差で 250 億円の悪化と、構成差が 100 億円プラスということで、これは主に電磁鋼板、それから風力向けの厚板、こういったものの拡販、これによって出ているということです。

質問者：今回のインドの 1,200 億円の追加投資というのは 8 次中期計画の中にあった海外の成長投資 4,000 億円の中の内数に入っているのか、また、中計の中では海外の鉄鋼事業、収益改善効果つ

てというのが 780 億円織り込まれていたと思いますが、そのうち、どれぐらいを今回、このインドの事業によって見込んでいるか、可能であれば定量的にコメントをいただければと思います。

JFE：インドについては、4,000 億円の中で第 1 弾として今回、投資を決定しました。実際に効果が発現するのは、本格稼働してフル生産になる 28 年以降とみていますが、8 次中期期間中においても一定程度効果を織り込んだうえで 780 億円を織り込んでいます。

質問者：1,200 億円のキャッシュの今後の出方っていうのは、こういったタイミングになりますか。

JFE：1,200 億円につきましては、JFE と JSW で 5 割 5 割の出資会社ですので、当社分は、その半分になります。あとは Vijayanagar と Nashik で建設のスケジュールが違いますので、若干分散すると思いますが、詳細は現時点では控えたいと思います。

質問者：高付加価値品比率拡大が、本年度の計画に向けてしっかり俎上にのって進んでいるのかどうかについて、改めて再確認させてください

JFE：先程から申し上げていますように、高付加価値品比率については、下期にこの比率を高めて生産量のマイナス影響をカバーしていこうと考えています。

質問者：来年の利益を想定するときは、25 年度下期見通しの 620 億円掛ける 2 をたたき台にする考え方が間違っているかどうかについてコメントをいただければと思います。

JFE：今の段階で下期の生産量が 1,025 万トンの前提ですので、この倍で良いかどうかって聞かれると少し疑問かと思います。来年度に向けての経済環境の変化や、鋼材需要の変化をもう少し見極めるべきかと思います。

質問者：自動車生産と建材の需要につきまして、1 Q の自動車は国内中心に堅調、一方で、7 月の月次が少し弱かったなかで、今後の見方について解説いただければと思います。

JFE：自動車につきましては、年度全体の見通しという意味では昨年並み程度と見ていますが、足元では、大きな変化を特に感じていない状況です。一方で、建材につきましては、工事の状況など様々なリスク要因もあり、回復というのはなかなか見通せないのかなというのが現時点の見立てです。

質問者：先般、JMU の造船のところは一部持分を今治造船に譲渡されると発表がありましたが、これからの造船の取り組みなどについて解説ください。

JFE：造船につきましては、われわれ、ジャパンマリンユナイテッドに 35%出資していますがこのうちの 15%を今治造船さんに売却します。

造船業界につきましては現在、世界全体に受注残は 3 年ほど持っていて安定しているという見方がありますが、一方で、去年 1 年で見ますと特に中国の造船会社がかつて閉鎖していたドックに建材、建設関係の余力を集めて操業を再開し、受注を増やしているような状況もあり、マーケットが大きく変わりつつあります。

韓国も積極的な動きをしている中で、日本の造船業がしっかりしていかなきゃいけないという思いを今治造船さんとも共有し、日本の造船業をきちんと立て直していきたいということで、今治造船さん主導でジャパンマリンユナイテッドも見ていっていただくというのが今回の狙いです。

質問者：中国の粗鋼減産の動きにつきまして、とりあえず反過当競争の動きのなかで、もちろん一時的な減産であれば大きな影響はないと思いますが、仮に大手の統合があればプラス影響が今後想定できると思いますが、ご感触をいただければと思います。

JFE：中国の減産につきましては正直、そういう形で動いてもらえれば非常にありがたいですが、われわれの段階では、まだまだ具体的な感触というのありませんし、この間、なかなかそういう動きになってこないなかで今の段階では何とも言えないということかなと思います。

質問者：2025 年度の見通しは事業利益で言うと 1,400 億円、入り繰りはあれども据え置きですが、これに対して 1Q の 162 億円が御社のご計画対比でどうだったのかっていう評価のコメントをいただければと思います。

JFE：1Q だけを見ますと、われわれ、為替の想定を 140 円で置いておりましたのが 145 円ということになっていますので、そういう意味では想定から少し良かったぐらいの感じかなとは思いますが。

質問者：米国関税の影響についても、自動車等は 1Q 時点では関税の影響みたいなのは見られていないのかなと推察されるなかで、50 万トンの影響を据え置いたのは元々、この 2Q 以降から出るイメージであったのか、少し読み難いので据え置いている感じなのか、感触を教えてくださいと幸いです。

JFE：米国の関税の影響は 1Q 段階で言いますとほとんど発現していないと見ています、

一方で、国内の完成車の 2 割がアメリカに輸出されており、建機も同様であり、各社さんの決算を見ても対応が様々ななかで、われわれとしても今後の想定が非常に立てづらいところです。

当初見立てたリスクというのはまだ顕在化してないけれども想定し得るということで、いったんリスクをそのまま置いた形で今回見通しを立てています。

司会：それでは、これをもちまして本日のインベスターズ・ミーティングを終了させていただきます。

[了]

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、提示された予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。